

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4457552号
(P4457552)

(45) 発行日 平成22年4月28日 (2010. 4. 28)

(24) 登録日 平成22年2月19日 (2010. 2. 19)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 5/20 (2006. 01)

B 6 5 D 5/20 C

B 6 5 D 5/66 (2006. 01)

B 6 5 D 5/66 3 1 1 A

B 6 5 D 5/66 3 1 1 H

請求項の数 1 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2002-332551 (P2002-332551)
 (22) 出願日 平成14年11月15日 (2002. 11. 15)
 (65) 公開番号 特開2004-168317 (P2004-168317A)
 (43) 公開日 平成16年6月17日 (2004. 6. 17)
 審査請求日 平成17年10月31日 (2005. 10. 31)

(73) 特許権者 000000066
 味の素株式会社
 東京都中央区京橋1丁目15番1号
 (74) 代理人 100086210
 弁理士 木戸 一彦
 (72) 発明者 荒井 まどか
 東京都港区西新橋1丁目16番7号 株式
 会社フレック内

審査官 渡邊 真

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 食品包装箱

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

平面視多角形の底板の各辺にそれぞれ谷折り線を介して側板を連設し、隣接する側板のいずれか一方の側板に他方の側板内側に折り曲げられるフラップを谷折り線を介して連設した食品包装箱において、前記フラップと前記他方の側板との対向辺の対応位置に、互いに反対方向へ屈曲する「ヘ」字状の切り欠きからなる係合部をそれぞれ設け、各側板及び各フラップを展開して、前記対応位置にそれぞれ設けられた「ヘ」字状の切り欠き同士を係合させて隣接する側板とフラップとを部分的に重ねて、各側板及び各フラップを前記底板の周囲に斜め上方に立ち上げて皿状に組み立て可能としたことを特徴とする食品包装箱。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、箱を展開すると皿としての機能を発揮する食品包装箱に関する。

【0002】

【従来の技術】

食品包装箱としては、平面視四角形の底板の各辺に側板をそれぞれ谷折り線を介して連設し、隣接する側板のいずれか一方の側板に他方の側板内側に折り曲げられるフラップを谷折り線を介して連設した組立箱がよく使用されている。また、例えば、ケーキ等の包装箱として、四角形の底板の各辺にそれぞれ谷折り線を介して連設される複数の側板と、各側

板間に谷折り線を介して連設される補助片と、前記側板の対向する一対の側板にそれぞれ谷折り線を介して連設される蓋板と、残りの対向する一対の側板にそれぞれ折り線を介して連設される吊り下げ片とを備えたものもある（例えば、特許文献1参照。）。

【0003】

【特許文献1】

特開2000-318725号公報（第2～4頁、図1～4）

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述の従来のは、輸送・貯蔵に適した機能を有するものの、箱を展開すると平板状になるので、収納された食品を別の皿に移す必要がある。例えば、学校給食のデザートとして配膳される1個箱入りケーキでは、生徒がケーキを持って別の皿に移して食べているので、非衛生的であった。また、アウトドアでの喫食の際には、箱を持って食べるので、食べにくく、収納された食品がこぼれたりすることがある。

10

【0005】

そこで本発明は、側板の展開が容易で、展開すると、内容物がこぼれない、持ちやすい等の皿としての機能を発揮する食品包装箱を提供することを目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記した目的を達成するため、本発明は、平面視多角形の底板の各辺に側板をそれぞれ谷折り線を介して連設し、隣接する側板のいずれか一方の側板に他方の側板内側に折り曲げられるフラップを谷折り線を介して連設した食品包装箱において、前記フラップと前記他方の側板との対向辺の対応位置に、互いに反対方向へ屈曲する「へ」字状の切り欠きからなる係合部をそれぞれ設け、各側板及び各フラップを展開して、前記対応位置にそれぞれ設けられた「へ」字状の切り欠き同士を係合させて隣接する側板とフラップとを部分的に重ねて、各側板及び各フラップを前記底板の周囲に斜め上方に立ち上げて皿状に組み立て可能としたことを特徴としている。

20

【0007】

【発明の実施の形態】

以下、本発明を、図面に示す各実施形態例に基づいて、さらに詳細に説明する。図1乃至図4は、直方体の食品包装箱に本発明を適用した第1実施形態例を示すもので、図1は展開図、図2は箱に組み立てる途中の斜視図、図3は箱として組み立てられた状態の斜視図、図4は皿として組み立てられた状態の斜視図である。

30

【0008】

耐油・耐水加工を施した紙製の食品包装箱1は、長方形の底板2の対向する長片の一方の辺（図1において下側）に谷折り線2aを介して四角形の第1側板3を、他方の辺（図1において上側）に谷折り線2bを介して四角形の第2側板4をそれぞれ連設するとともに、対向する短辺の一方の辺（図1において右側）に谷折り線2cを介して四角形の第3側板5を、他方の辺（図1において左側）に谷折り線2dを介して四角形の第4側板6をそれぞれ連設し、さらに、第3側板5に谷折り線5aを介して蓋板7を、第4側板6に谷折り線6aを介して蓋板8をそれぞれ連設している。

40

【0009】

第1側板3は、隣接する第3側板5側に谷折り線3aを介して扇形の第1フラップ9を、隣接する第4側板6側に谷折り線3bを介して扇形の第2フラップ10を、残りの辺に谷折り線3cを介して折り曲げ片11をそれぞれ連設している。また、第2側板4は、隣接する第3側板5側に谷折り線4aを介して扇形の第3フラップ12を、隣接する第4側板6側に谷折り線4bを介して扇形の第4フラップ13を、残りの辺に谷折り線4cを介して折り曲げ片14をそれぞれ連設している。第1及び第3フラップ9、12は、展開状態で第3側板5との空間を埋める大きさに形成され、また、第2及び第4フラップ10、13も、同様に、展開状態で第4側板6との空間を埋める大きさに形成されている。

【0010】

50

第3側板5と第1フラップ9とは、それぞれの対向辺5b、9aに、互いに係合するための係合部として切り欠き15、16を対応する位置に形成し、また、第3側板5と第3フラップ12も、それぞれの対向辺5c、12aに互いに係合するための切り欠き17、18を対応する位置に形成している。同様に、第4側板6と第2フラップ10も、それぞれの対向辺6b、10aに互いに係合するための切り欠き19、20を、第4側板6と第4フラップ13も同様に、それぞれの対向辺6c、13aに互いに係合するための切り欠き21、22をそれぞれ対応する位置に形成している。蓋板7、8は、それぞれの先端に互いに係合するための係止溝7a、8aを設けている。

【0011】

この食品包装箱1は、各フラップ9、10、12、13をそれぞれ箱内側へ折り曲げ、第1側板3及び第2側板4を箱内側へ折り曲げ、続いて、第3側板5及び第4側板6を箱内側へ折り曲げると、フラップ9、12が第3側板5の内側に、フラップ10、13が第4側板6の内側にそれぞれ折り曲げられて、第1側板3、第2側板4、第3側板5及び第4側板6が底板2に対して90度立ち上がる。この状態で各側板3、4、5、6で囲まれる空間内に例えばケーキCを入れ、折り曲げ片11、14を箱内側へ折り曲げ、さらに蓋板7、8を箱内側へ折り曲げて、蓋板7、8の係止溝7a、8a同士を係合させると、食品包装箱1が直方体形の箱に組み立てられる。

【0012】

次に、食品包装箱1を皿として使用する順序を説明する。蓋板7、8の係合を解いて蓋板7、8を開き、第1側板3、第2側板4、第3側板5、第4側板6及び各フラップ9、10、12、13を広げて展開し、第3側板5の切り欠き15にフラップ9の切り欠き16を、第3側板5の切り欠き17にフラップ12の切り欠き18を、第4側板6の切り欠き19にフラップ10の切り欠き20を、第4側板6の切り欠き21にフラップ13の切り欠き22をそれぞれ差し込んで係合させると、第3側板5とフラップ9、12、第4側板6とフラップ10、13とがそれぞれ部分的に重なって、各側板3、4、5、6及び各フラップ9、10、12、13は、ケーキCを載置した底板2の周囲に斜め上方に立ち上り、底板2の周囲に上方へ広がるテーパー状の縁を形成して皿状に組み立てられる。

【0013】

図5乃至図7は、平面視三角形の食品包装箱に本発明を適用した第2実施形態例を示すもので、図5は展開図、図6は箱として組み立てられた状態の斜視図、図7は皿として組み立てられた状態の斜視図である。食品包装箱30は、三角形の底板31の各辺に、谷折り線31aを介して四角形の第1側板32を、谷折り線31bを介して四角形の第2側板33を、谷折り線31cを介して四角形の第3側板34をそれぞれ連設し、第1側板32の第2側板33側に谷折り線32aを介して第1フラップ35を接続し、第2側板33の第3側板34側に谷折り線33aを介して第2フラップ36を、第3側板34の第1側板32側に谷折り線34aを介して第3フラップ37をそれぞれ連設するとともに、第1側板32に谷折り線32bを介して三角形の蓋板38を連設している。各フラップ35、36、37は、展開状態で隣接する側板との間を埋める大きさに形成され、中央部分に谷折り線35b、36b、37bをそれぞれ設けている。

【0014】

また、第2側板33に谷折り線33bを介して折り曲げ片39を、第3側板34に谷折り線34bを介して折り曲げ片40をそれぞれ連設している。さらに、蓋板38の第2側板33に対応する辺38aに係止片41を、第3側板34に対応する辺38bに係止片42をそれぞれ折り曲げ可能に設け、第2側板33の折り線33bの中央に係止片41の挿入溝43を、第3側板34の折り線34bの中央に係止片42の挿入溝44をそれぞれ形成している。

【0015】

第1フラップ35と第2側板33とは、それぞれの対向辺35a、33cに互いに係合するための切り欠き45、46を、同様に、第2フラップ36と第3側板34も、それぞれの対向辺36a、34cに切り欠き47、48を、第3フラップ37と第1側板32も、

10

20

30

40

50

それぞれの対向辺 37 a, 32 c に切り欠き 49, 50 をそれぞれ対応する位置に形成している。

【0016】

この食品包装箱 30 は、各フラップ 35, 36, 37 を谷折り線 35 b, 36 b, 37 b にてそれぞれ二つに折り曲げた後、各フラップ 35, 36, 37 をそれぞれ箱内側へ折り曲げ、続いて、各側板 32, 33, 34 を箱内側へ折り曲げて、第 1 フラップ 35 を第 2 側板 33 の内側に、第 2 フラップ 36 を第 3 側板 34 の内側に、第 3 フラップ 37 を第 1 側板 32 の内側にそれぞれ寄せ、この状態で、各側板 32, 33, 34 で囲まれる空間内に食品を入れ、折り曲げ片 39, 40 を箱内側へ折り曲げ、蓋板 38 を被せて、係止片 41 を挿入溝 43 に、係止片 42 を挿入溝 44 にそれぞれ挿入することにより、食品包装箱 30 が組み立てられる。

10

【0017】

皿として使用する場合は、前記第 1 実施形態例と同様に、蓋板 38 を開けて各側板 32, 33, 34 及び各フラップ 35, 36, 37 を展開し、各フラップ 35, 36, 37 をそれぞれ広げて、第 1 フラップ 35 の切り欠き 45 を第 2 側板 33 の切り欠き 46 に、第 2 フラップ 36 の切り欠き 47 を第 3 側板 34 の切り欠き 48 に、第 3 フラップ 37 の切り欠き 49 を第 1 側板 32 の切り欠き 50 にそれぞれ係合させることにより、各側板 33, 33, 34 及び各フラップ 35, 36, 37 が底板 31 の周囲に斜め上方に立ち上り、底板 31 の周囲に上方へ広がるテーパー状の縁を形成して皿状に組み立てられる。

【0018】

20

図 8 乃至図 10 は、平面視五角形の食品包装箱に本発明を適用した第 3 実施形態例を示すもので、図 8 は展開図、図 9 は箱として組み立てられた状態の斜視図、図 10 は皿として組み立てられた状態の斜視図である。食品包装箱 60 は、五角形の底板 61 の各辺に、谷折り線 61 a を介して四角形の第 1 側板 62 を、谷折り線 61 b を介して四角形の第 2 側板 63 を、谷折り線 61 c を介して四角形の第 3 側板 64 を、谷折り線 61 d を介して四角形の第 4 側板 65 を、谷折り線 61 e を介して四角形の第 5 側板 66 をそれぞれ連設している。

【0019】

また、第 1 側板 62 の第 2 側板 63 側に谷折り線 62 a を介して第 1 フラップ 67 を、第 2 側板 63 の第 3 側板 64 側に谷折り線 63 a を介して第 2 フラップ 68 を、第 3 側板 64 の第 4 側板 65 側に谷折り線 64 a を介して第 3 フラップ 69 を、第 4 側板 65 の第 5 側板 66 側に谷折り線 65 a を介して第 4 フラップ 70 を、第 5 側板 66 の第 1 側板 62 側に谷折り線 66 a を介して第 5 フラップ 71 をそれぞれ連設するとともに、第 1 側板 62 に谷折り線 62 b を介して五角形の蓋板 72 を連設している。各フラップ 67, 68, 69, 70, 71 は、展開状態で隣接する側板との間を埋める大きさに形成されている。

30

【0020】

さらに、第 2 側板 63 に谷折り線 63 b を介して折り曲げ片 73 を、第 3 側板 64 に谷折り線 64 b を介して折り曲げ片 74 を、第 4 側板 65 に谷折り線 65 b を介して折り曲げ片 75 を、第 5 側板 66 に谷折り線 66 b を介して折り曲げ片 76 をそれぞれ連設している。また、蓋板 72 の第 2 側板 63 対応辺 72 a に係止片 77 を、第 3 側板 64 対応辺 72 b に係止片 78 を、第 4 側板 65 対応辺 72 c に係止片 79 を、第 5 側板 66 対応辺 72 d に係止片 80 をそれぞれ折り曲げ可能に設け、第 2 側板 63 の折り線 63 b 中央に係止片 73 の挿入溝 81 を、第 3 側板 64 の折り線 64 b 中央に係止片 74 の挿入溝 82 を、第 4 側板 65 の折り線 65 b 中央に係止片 75 の挿入溝 83 を、第 5 側板 66 の折り線 66 b 中央に係止片 76 の挿入溝 84 をそれぞれ形成している。

40

【0021】

第 1 フラップ 67 と第 2 側板 63 とは、それぞれの対向辺 67 a, 63 c に互いに係合するための切り欠き 85, 86 を、同様に、第 2 フラップ 68 と第 3 側板 64 も、それぞれの対向辺 68 a, 64 c に切り欠き 87, 88 を、第 3 フラップ 69 と第 4 側板 65 も、それぞれの対向辺 69 a, 65 c に切り欠き 89, 90 を、第 4 フラップ 70 と第 5 側板

50

66も、それぞれの対向辺70a, 66cに切り欠き91, 92を、第5フラップ71と第1側板62も、それぞれの対向辺71a, 62cに切り欠き93, 94をそれぞれ対応する位置に形成している。

【0022】

この食品包装箱60は、各フラップ67, 68, 69, 70, 71をそれぞれ箱内側へ折り曲げ、続いて、各側板62, 63, 64, 65, 66を箱内側へ折り曲げて底板61の周囲に90度立ち上げ、各側板62, 63, 64, 65, 66で囲まれる空間内に食品を入れ、折り曲げ片73, 74, 75, 76を箱内側へ折り曲げ、蓋板72を被せて、係止片77を挿入溝81に、係止片78を挿入溝82に、係止片79を挿入溝83に、係止片80を挿入溝84にそれぞれ挿入することにより、食品包装箱60が組み立てられる。

10

【0023】

皿として使用する場合は、前記第1, 2実施形態例と同様に、蓋板72を開けて各側板62, 63, 64, 65, 66及び各フラップ67, 68, 69, 70, 71を展開し、第1フラップ67の切り欠き85を第2側板63の切り欠き86に、第2フラップ68の切り欠き87を第3側板64の切り欠き88に、第3フラップ69の切り欠き89を第4側板65の切り欠き90に、第4フラップ70の切り欠き91を第5側板66の切り欠き92に、第5フラップ71の切り欠き93を第1側板62の切り欠き94にそれぞれ係合させることにより、各側板62, 63, 64, 65, 66及び各フラップ67, 68, 69, 70, 71が底板61の周囲に斜め上方に立ち上がり、底板61の周囲に上方へ広がるテーパー状の縁を形成して皿状に組み立てられる。

20

【0032】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の食品包装箱は、展開が容易で、展開すると、底面に空隙がなくて内容物がこぼれない皿状にすることができる。したがって、別の皿を用意する必要がない。また、持ち運びやすく、収納された食品に手を触れずに皿にすることができるから衛生的である。さらに、底板、側板及びフラップの内側に絵を描くことにより、絵皿としての演出ができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施形態例の箱の展開図

【図2】同じく箱に組み立てる途中の斜視図

30

【図3】同じく箱として組み立てられた状態の斜視図

【図4】同じく皿として組み立てられた状態の斜視図

【図5】第2実施形態例の箱の展開図

【図6】同じく箱として組み立てられた状態の斜視図

【図7】同じく皿として組み立てられた状態の斜視図

【図8】第3実施形態例の箱の展開図

【図9】同じく箱として組み立てられた状態の斜視図

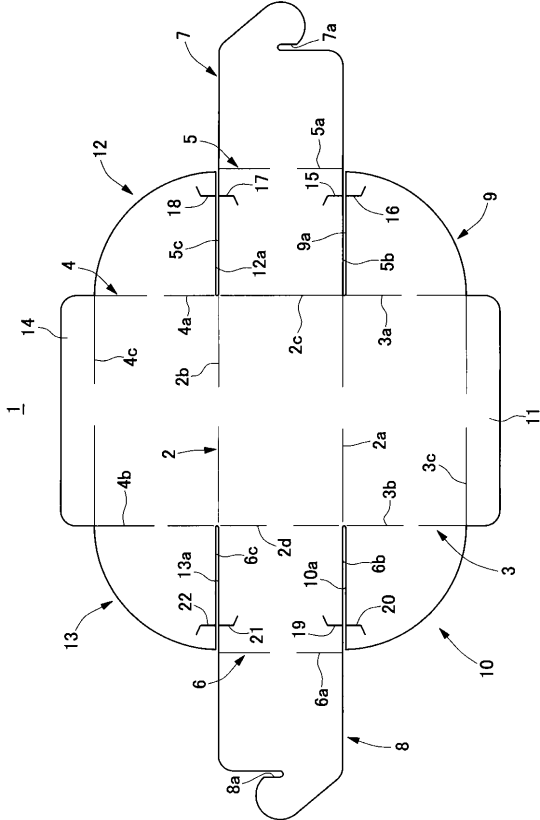
【図10】同じく皿として組み立てられた状態の斜視図

【符号の説明】

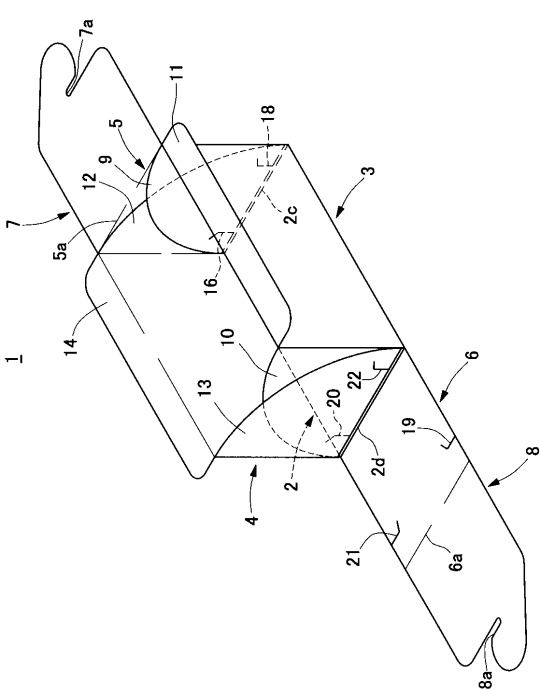
1…食品包装箱、2…底板、2a, 2b, 2c, 2d…底板2の谷折り線、3…第1側板、3a…第1側板3の谷折り線、4…第2側板、4a…第2側板4の谷折り線、5…第3側板、5a…第3側板5の谷折り線、5b…第3側板5の第1フラップ9との対向辺、5c…第3側板5の第3フラップ9との対向辺、6…第4側板、6a…第4側板6の谷折り線、6b…第4側板6の第2フラップ10との対向辺、6c…第4側板6の第4フラップ13との対向辺、7, 8…蓋板、9…第1フラップ、9a…第1フラップ9の第3側板5との対向辺、10…第2フラップ、10a…第2フラップ10の第4側板6との対向辺、12…第3フラップ、12a…第3フラップの第3側板5との対向辺、13…第4フラップ、13a…第4フラップの第4側板6との対向辺、15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22…切り欠き

40

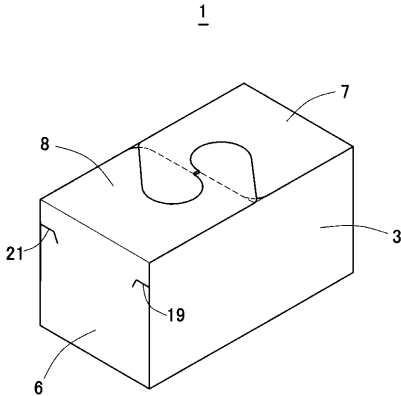
【図 1】



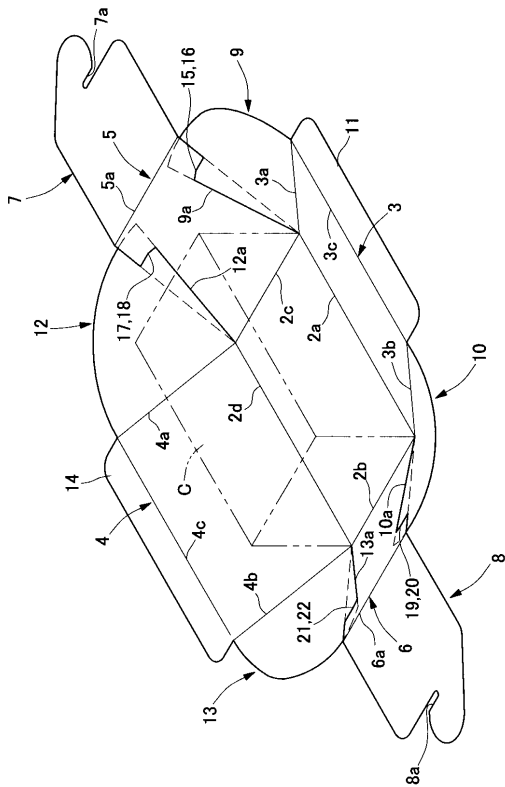
【図 2】



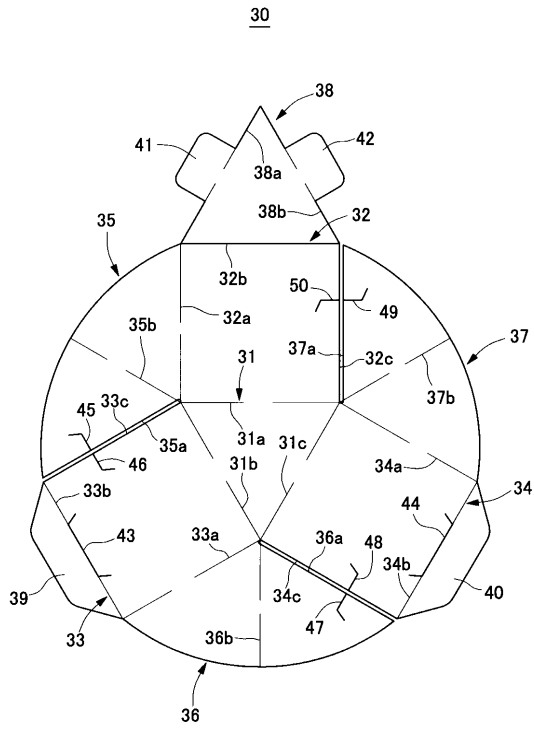
【図 3】



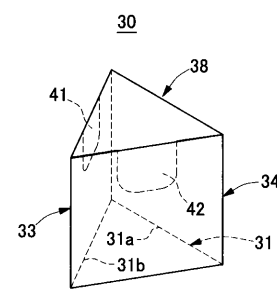
【図 4】



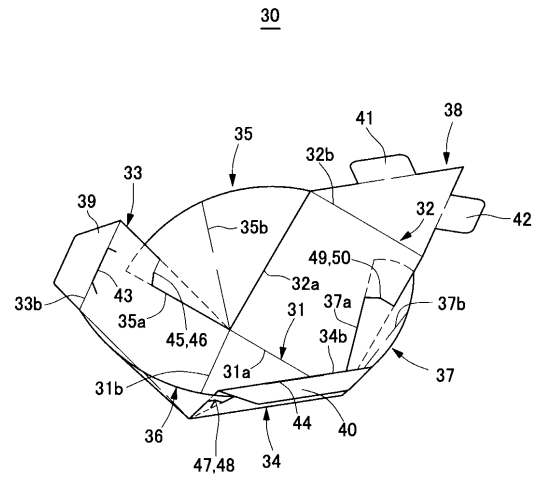
【図 5】



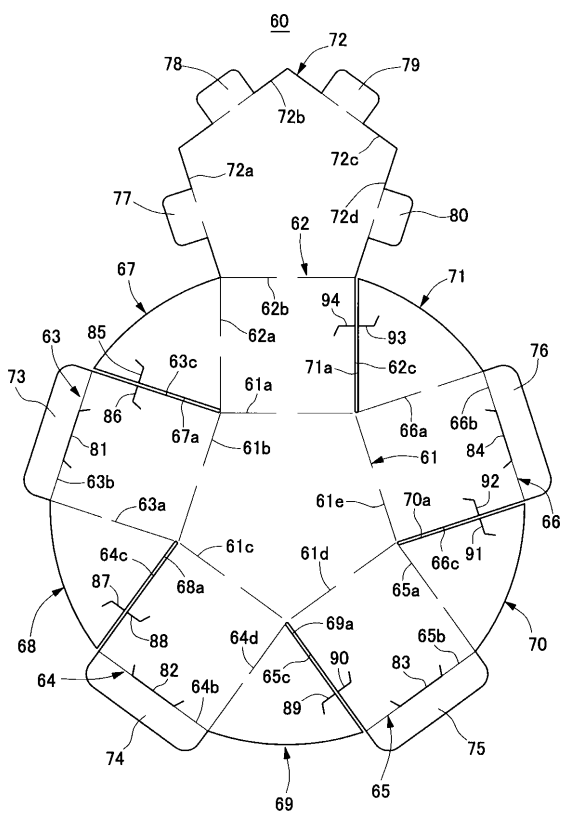
【図 6】



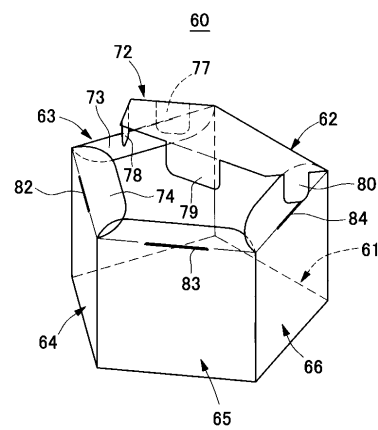
【図 7】



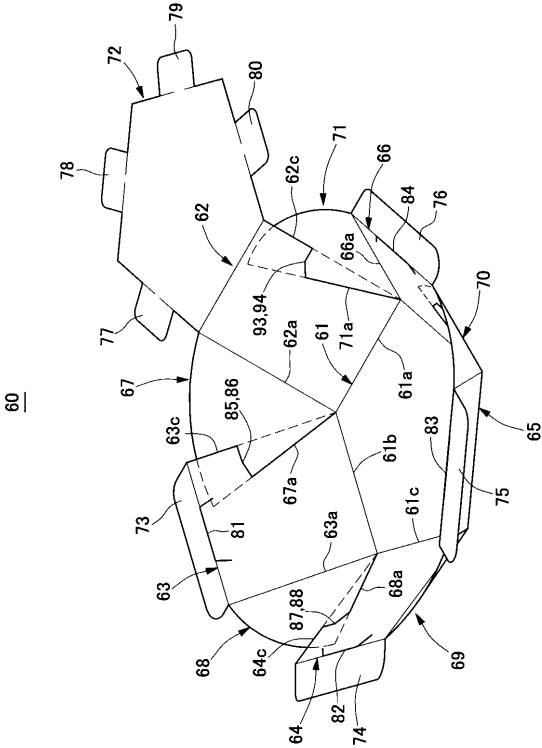
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平08-072854 (JP, A)
特開2000-335549 (JP, A)
実開昭51-056334 (JP, U)
登録実用新案第3031109 (JP, U)
特開平11-342932 (JP, A)
実開平02-124815 (JP, U)
実開昭58-021510 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D 5/20

B65D 5/66